


場 所		分 類		被ばく低減対策好事例集					
原子炉建屋内	R B	R, Z	6			1	時間		
タービン建屋内	T B					2	距離		
R ZONE	R					3	遮へい		
Y ZONE	Y					4	線源の除去		
G ZONE	G					5	遠隔、ロボット化		
その他	Z					6	汚染拡大防止	番号	4- (3)
(Rα)						7	その他		

内 容	改良型全面マスク用アノラックの導入について			
作業場所	—			
概 略	全面マスク取り外し時における放射性物質の内部取り込みを防止するため、全面マスク及び電動ファン付き全面マスクを覆うことができるアノラック（防護装備）を導入			
評 価 (定性・定量)	効 果		対策前	対策後
		被ばく線量(mSv)	—	—
		人工数(人日)	—	—
事例詳細				

目的

建屋内作業等の汚染レベルの高い作業において、全面マスクの表面に汚染物質が付着し、作業後、マスクを外す際に顔面に汚染物質が付着する事象が発生している状況を踏まえ、内部取り込み防止対策の一環として、全面マスクを覆うことができる放射線防護装備（アノラック）を導入した。

マスクタイプ	2021年度	2022年度の取り組み
A社製 全面マスク 	現行型 全面マスク用アノラック 2021年10月より使用開始。 (12000着購入) 	改良型 全面マスク用アノラック  <ul style="list-style-type: none"> ・アノラック面体部の材質を見直し。 ・両メーカーの全面マスクに着用可能。 ※5000着購入
B社製 全面マスク 	未着手 共通で使用できるようA社製の全面マスク用アノラックを改良し、試着テストを実施している。運用開始については2022年下期を目標。	
A社製 電動ファン付き 全面マスク 	未着手 試着テストを実施しており、アノラックの曇り対策を検討中。運用開始については2022年下期を目標とする。	電動ファン付き 全面マスク用アノラック  <ul style="list-style-type: none"> ・一部メーカーの全面マスクに着用可能 ※500着購入
B社製 電動ファン付き 全面マスク 		
		今後検討予定 構造がB社製電動ファン付き全面マスクと異なる為、共用で使用不可。

【特徴】

＜全面マスク上に着用＞

- ・当社で使用している全ての全面マスク上に着用可能
- ・フィルタ部（吸気）はゴムによる絞り加工を施し、排気部は呼吸の通りを妨げないように切り抜かれている。
- ・頭部及び全面マスクの約60～70% ※の部分のアノラックで覆うことができるため、作業中の汚染物質の付着を防止できる。
- ・シールド下部が発汗による熱気等で曇らないよう加工されている。（防曇工フィルム）

※マスクタイプにより露出面積が異なる。

＜改良型全面マスク用アノラック着用状況＞



＜電動ファン付き全面マスク上に着用＞

- ・当社で使用している一部の電動ファン付き全面マスク上に着用可能。
- ・フィルタユニット部（吸気）はゴムによる絞り加工を施し、排気部は呼吸の通りを妨げないように切り抜かれている。
- ・頭部及び全面マスクの約80%の部分のアノラックで覆うことができるため、作業中の汚染物質の付着を防止できる。
- ・シールド下部が発汗による熱気等で曇らないよう加工されている。（防曇工フィルム）

＜電動ファン付き全面マスク用アノラック着用状況＞



＜従来のアノラック＞



全面マスクは、アノラックで覆われていない
↓
作業中に、全面マスク表面に汚染物質が付着
↓
作業後、汚染物質が付着している全面マスクを外す
↓
全面マスクを外す際に、顔に汚染物質が伝播するリスクあり

＜改良型全面マスク用アノラック＞



全面マスクは、アノラックで覆われている
↓
作業中に、全面マスク表面への汚染物質の付着を防止
↓

↓
全面マスクを外す際、汚染物質の伝播のリスクが減少

【着用効果】

【従来の脱衣の流れ】

●：汚染物質の付着を想定



【導入後の脱衣の流れ】

●：汚染付着を想定



【配備スケジュール】

	2022年				2023年		
	4月～9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
検討、試着テスト							
仕様確定							
アノラック製作							
納品予定							
運用開始予定							

編集：東京電力ホールディングス株式会社